



横浜市立一本松小学校

2月号

学校だより

令和6年1月31日
横浜市立一本松小学校
校長 高桑 透

絆~つながり つなぐ~

副校長 杉山 嘉子

2024年1月1日の能登半島地震から1か月がたとうとしています。

被災された地域にご親族がいらっしゃるご家庭のみなさま、地域にゆかりのある方におかれましては、大変なご心配とご苦勞をされていることと思います。心よりお見舞い申し上げます。

大きな災害が起こるたび、また東日本大震災が起こった3月11日が近づくたび、思い出すのが、気仙沼市立階上中学校卒業生代表の卒業式での言葉(答辞)です。

2011年3月11日から12日目の3月22日、学区の多くが津波で壊滅的な被害を受け、地域住民の避難所となっている中学校の体育館でその卒業式は行われました。

未曾有の自然災害を前に無力感にさいなまれながらも、深い悲しみを乗り越え、立ち上がろうとする決意を力強く語る卒業生の姿は、多くの人の心をうち、災害との向き合い方を問いかけているようにも思えました。

「…苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。…」この心からの思いにあふれた言葉にふれるたび、10年以上の年月を経た今でも、背筋が正される思いになると同時に、生きる力をもらえます。

「助け合って生きるとは…」 「絆とは…」 「生きる力とは…」 。日常の学校生活で、子どもも私たち大人も、正解のない問いに向き合い、皆と最適解を見出す中で、助け合うこと、生きる力を身に付けることの価値に気づき、多くの学びを積み重ねていきたいと感じています。

本校は、1月27日に創立113年を迎えました。地域にとともに生き、歴史をつなぐ一本松小学校。これからも、子どもたちが学び、成長していく姿を、温かく見守っていただけたら幸いです。

けせんぬましりつはしかみちゅうがっこう <気仙沼市立階上中学校 2011.3.22卒業式 答辞 (文部科学省白書2010より 一部抜粋)>

…ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を57名そろって巣立つはずでした。前日の11日。一足早く渡された、思い出の詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思い出をはせた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らず…

階上中学といえば「防災教育」といわれ内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし自然の猛威の前には、人間の力はあまりに無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、おごすぎるものでした。つらくて悔しくてたまりません。時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で仲間と共有した時を忘れず宝物として生きていきます。…